



「台風一過」でホッ、としがちだけど



台風や豪雨から自分と家族を守るために何を備え、どう行動すべきでしょうか。
大阪市北区役所の防災担当者からのメッセージです。

防災で大切なこと・知ってほしいこと

ここ数年、風水害の被害は毎年各地で発生しています。北区でもいつ災害が発生してもおかしくない時代になってきました。さらに、今年（令和2年）は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止など、重なる災害に対する備えが必要です。災害発生時に慌てることのないよう、今こそ「災害に備える」を考えましょう。

「水と食べ物」キホンの備え

ライフライン（水、電気、ガス、通信）が停止し、マンションのエレベーターやトイレ、オートロックなどが使えない状況を想像した事はありませんか？

普段当たり前にできていたこと（室内の電気をつける、お風呂を沸かすなど）が、災害時にライフラインが復旧するまでの間、自宅で過ごせるよう普段から備えておかなければ自宅避難生活をする事になります。 「何から備えたらいいのかわからない」とよく質問されますが、まずは水と食べ物です。

「水」は一人一日3リットル必要と言われています。「水と食べ物」は、長期間保存できるものでなくても、普段から食べ慣れたものを少し多めに買い置きし、「食べたり、飲んだり」した場合は、買い足す方法を普段から取り入れましょう。 備蓄する内容は子どもや高齢者など家族構成に合わせてください。

台風接近時には

台風時の停電は、エアコンなども使用できないので、熱中症対策なども考えておかなければなりません。普段の備蓄や対策に もう一つの工夫やアイデアが必要です。

台風接近時に、自宅の窓を開けてしまうと、室内に風雨の被害が発生する可能性があります。窓を締め切った状態になります。 エアコンが使えない、窓も開けられない状況での暑さ対策を考えると、スポーツ飲料や、冷却ジェルなども備えの一つです。 また、ポータブル電源などあれば停電時も扇風機などが使用でき、熱中症対策になります。

停電した場合

停電からの復旧に備え、電気製品の電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。停電している間に自宅をしばらく離れる場合は、電気が復旧した際に「火災」が起きる恐れがあるため、ブレーカーを切ってから外出するようにしてください。

災害への備えは各家庭でさまざまです。日常生活から防災を意識し、日ごろ使っているアイテムを「災害時に活用できないか？」と考えることが大切です。 巻末資料のハザードマップは、皆さんの命を救う大切な情報となっています。ぜひ、家族やお友達と共有してください。 災害はいつ起こるかわかりません。もしもの時に「自信（ジンシン）」をもって行動できるように「備える」を始めましょう。



北区役所
地域課
担当者



← 北区は風水害の「本場」です。ハザードマップも必見！